

「殺生石」物語考

物語の概略③

蕪護一行が入廷すると、紂王は、すでに妖狐が魅入った壽羊の美しさに、忽ち魅了された。王の寵愛は限りなく、壽羊の名を如己と改め昼夜淫酒にふける。それとともに、政治は荒んで、百官の戒めも聞かない。宴会のために、高さ十余丈（30メートルあまり）の摘星楼を始め、鹿臺という高殿を造り、池には酒を満たし、林には肉を掛け、王は如己とともに、酒池肉林の宴を楽しんだ。

ここに、岐州の支配者西伯侯姫昌（後の周の文王）という者が、紂王を諫めたが、如己の謀により7年間、囚われの身となる。その子息伯邑考は、岐州から上京して父の身代わりになることを紂王に願い出る。が、如己のため切り殺されて、その肉は塩漬けにされる。如己は紂王に、その肉を、入牢中の姫昌に贈り、もし、これを悟って彼が喰わなければ、彼は聖人に違くないから切つてしまえ。もし、喰えば、彼は常人にすぎないから、生かしても差し支えないと話す。姫昌は、その奸計を見破つて、我が子の塩肉を全て喰らつて見せる。

（出典 高井蘭山「繪本三国妖婦傳」）

真つ赤に焼けた銅製の柱に脂をぬり、人を裸にして、それを抱かせた。これを炮烙の刑という。また、五丈（15メートル）あまりの穴を掘らせ、蛇や蜈蚣、蜂、蠶などをその中に貯え、裸にした女をその穴に投げ入れた。女の皮肉は忽ち嚼喰らわれる。これを蠶盆の刑という。如己はまた、妊婦の腹の子の性別を予告し、紂王が十余人の腹を裂かせて確かめると、悉く如己の言う通りであった。二人は、手を打つて笑い興じた。殷の民は皆、



筆者 前那須歴史探訪館 館長

齊藤 宏壽 先生(湯本在住)

今月のひとこと

一億の民歩み出す

列島に桜花咲く年度の始め

かつこう

「ひさかたの光のどけき春の日にしづ心なく花の散るらむ」紀友則は、のどかな光の中どうして桜の花は散り急ぐのかと詠んだ。春は別れと出会いの季節。祝福と淋しさが交ぜになった気持ちが美しく散る花を惜しむ心に重なる

▼町内小中学校の卒業式に取材に行くとき、卒業生が見せるさまざまな表情が充実した学校生活を物語っていた。我が子の成長の喜びが涙となつて保護者の目を潤ませる。教職員と学校支援に携わる地域住民に見守られ、卒業生たちは新たな一歩を歩きます。そして問もなく迎える入学式では、きつと夢と希望に満ちた顔を見せてくれるだろう▼30年度当初予算では、小中学校での英語教育や国際交流を重点事業として取り組むほか、引き続きコミュニケーションの導入やパソコン教育の推進を実施

し、教育環境の充実を図る。希望に満ちて入学する児童生徒たちが数年後卒業する時に、充実した学校生活だったと思えることを願つて▼桜の開花とともに迎える期待と不安の新年度、満開の花が新入生や新入社員、それぞれの新たな一歩を後押しする。不安はきつと花びらとともに散つていき、期待は新緑となり大きく育つだろう。散りゆく桜の花は惜しいけれど、柔らかく芽吹く若葉に期待を込めて。

こんにちは 赤ちゃん



益子 紗凧 ちゃん
(下町)

平成28年
12月14日生

父 勇也さん 母 紫織さん

紗凧ちゃんは…

天真爛漫。
いつも元気いっぱい
です。

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。
詳しくは総務課広報聴係(☎72-6901)まで。

町の世帯と人口 ・世帯数 10,230世帯 (-14)
(3月1日現在・住民基本台帳) ・人口 25,488人 (-53)
()の数字は前月比 男 12,628人(-31) 女 12,860人(-22)

あなたの「声」をきかせてください

地域の身近な情報や、広報「那須」の感想・ご意見をお待ちしています。
お名前と連絡先とともに下記までお寄せください。